

会 議 録

(敬省略：発言は要約です)

会 議	平成25年度第1回みのかも定住自立圏構想共生ビジョン懇談会
日 時	平成25年7月9日(火) 19時から21時20分まで
場 所	美濃加茂市生涯学習センター201集会室
出席者	<p>出席委員24名 佐合茂樹(美濃加茂市)、野村宗弘(美濃加茂市) 金武政博(坂祝町) 加藤賢(川辺町)、市原正隆(富加町)、塚本吉弘(七宗町) 柘植伴美(八百津町)、長島佳久(白川町)、今井政信(東白川村) 大矢正昭(美濃加茂市)、田中 強(美濃加茂市)、小西輝幸(坂祝町) 加藤孝明(川辺町)、小島一彦(富加町)、古田文英(白川町) 安江美好(東白川村)、高井俊樹(美濃加茂市)、太田悟実(坂祝町) 佐伯敏充(川辺町)、渡辺謙太郎(富加町)、吉村研(七宗町) 牧尾 梢(八百津町)、藤井宏之(白川町)、杉田正和(東白川村) 欠席：安藤道弘(美濃加茂市)、山田 智(美濃加茂市) 長谷川嘉彦(七宗町)、佐合重光(八百津町)</p> <p>オブザーバー 名城大学都市情報学部 昇 秀樹 教授 三菱UFJリサーチ&コンサルティング政策研究事業本部 名古屋本部 永柳 宏 研究開発部長</p> <p>美濃加茂市 市長 藤井浩人 市民協働部長 伊藤誠一 市民協働部次長兼定住自立圏推進室長 渡辺久登 市民協働部定住自立圏推進室 安田智洋、井戸 伸 経営企画部秘書課長 渡辺久司 健康福祉部健康課長 朝日伸久 産業建設部都市計画課長 池田正幸 市民協働部文化振興課長 小田島史佳</p> <p>加茂郡 坂祝町総務課長 三品智裕、林 伸孝 川辺町企画まちづくり課長 桜井繁治、馬場啓司 富加町総務課長 川崎敏博、高井絢也 七宗町企画財政課 塚本 誠 八百津町総務課長 青山孝平 後藤 等 白川町経営管理課 藤井寿弘</p>

	東白川村総務課 伊藤保夫 傍聴人 20名	参加者合計65名
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員委嘱 ・ 定住自立圏構想とは（総務省最新資料） ・ みのかも定住自立圏構想について ・ 意見交換会「みのかも定住自立圏地域力分析ブックから見えてくる圏域の強みと弱み」 	

室長	開会。この会議は公開で行わせていただきます。	
市長	あいさつ。定住自立圏構想は、地方圏から三大都市圏への人口流出をくいとめる一つの施策。ここで生活してもらえるように、地方の良さをうち出していきたい。圏域のこれからを考えるビジョン懇談会を大切にしていきたいと思います。	
室長	委員委嘱。ビジョン懇談会を設置し、みのかも定住自立圏を進めていきたい。平成24年度より引き続き、会長を大矢様、副会長を太田様をお願いしたいと思います。	
委員	了承	
会長	本年度もみなさんの協力をいただきながらやっていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。	
副会長	副会長として、学校関係者としてもできることを進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。	
会長	ここから司会をさせていただきます。定住自立圏構想とは、について推進室より説明してください。	
推進室	資料に基づいて説明。現在のビジョンは平成26年度で終了する予定。総務省では平成27年度以降も定住自立圏構想を重要な施策として位置づけている。経済財政諮問会議第14回（内閣府）「骨太の方針（素案）」、地方制度調査会（総務省）「大都市制度の改革及び基礎自治体の行政サービス提供に関する答申（案）」においても引き続き進めていくことが明記されている。	
会長	続いて、みのかも定住自立圏構想について、を推進室より説明してください。	

推進室	資料に基づいて説明。定住自立圏形成協定は、中心市と周辺町村の1対1で締結していること、共生ビジョンは圏域に一つである。美濃加茂市ではみのかも定住自立圏推進本部を設置、ビジョンにある各事業に担当者を配置し、周辺町村の担当者とプロジェクトチームを形成して事業を推進している。
会長	以上、ここまでのところで質疑等がありますか。
委員	質疑なし
会長	これより、意見交換会「みのかも定住自立圏地域力分析ブックから見えてくる圏域の強みと弱み」を行います。
室長	この意見交換会に際して、みのかも定住自立圏地域力分析ブック【平成24年度版】の製作にご協力をいただきました 名城大学都市情報学部教授 昇 秀樹 様、三菱UFJリサーチ&コンサルティング政策研究事業本部名古屋本部研究開発部長 永柳 宏 様にお越しいただきました。はじめに永柳様より説明をいただきます。
永柳氏	<p>分析ブックの分析編を中心に4つのテーマについて説明いたします。平成23年度版から将来人口、平成24年度版から財政問題、地域医療、通勤圏についてです。</p> <p>将来人口については、国勢調査の結果に基づいてコーホート要因法による分析を行いました。美濃加茂市では、人口増加を続けてきており、特に平成12年と17年の間は円安傾向もあり、工業出荷額、人口も増加して潤ってきました。平成20年途中からリーマンショックによる影響を受け、美濃加茂市も将来的に人口が減ると推測されます。すべての市町村において人口は減少。定住自立圏構想がスタートしたときと今では状況が異なります。</p> <p>続いて財政についてです。平成25年1月に政府から公務員給与の削減にあわせた地方交付税の減額が提示されました。地方交付税は3年連続の縮小です。そもそも地方交付税とは、国が地方の一定の財源を保障する制度です。地方交付税に依存する市町村にとっては厳しくなっています。歳出では、これからいわゆる義務的経費の比率が増えていくことは間違いありません。ここ数年扶助費、社会保障費や福祉・介護関係費などが増加しています。よって、土木、産業振興への投資は厳しくなっており、歳出をいかに抑えながら、従来行政がやらなくてはならないサービスを維持していくかが課題です。支出を少なくするといっても、住</p>

民生活に直結するサービスをすぐに削減というわけにはいきません。地域医療の特徴は、美濃加茂市には比較的大規模な病院があり、医師が多くいることです。人口1000人あたりの医師数も2.45人と恵まれています。しかし、他の町村では1.0人を下回っています。美濃加茂市の医療機関が圏域の医療を支えていることがわかります。一方で、この圏域が恵まれているのは、美濃加茂市のほかに白川町にも救急指定医療機関があることです。このことにより、救急患者が美濃加茂市へ集中することを抑制し、圏域の北部でも近くの医療機関で救急診療の機会が確保されていることとなります。今後、高齢者が増えてくると、救急搬送人員も増加することが推定されます。軽傷の方々の取り扱い、救急車のタクシー的利用を抑えることが求められます。

この圏域では、美濃加茂市だけが昼夜間人口比率が高くなっています。美濃加茂市に雇用の場があることが現れています。しかし、坂祝町・富加町では各務原市や関市に通勤・通学する人が多く、川辺町や八百津町、七宗町では可児市などに通う人が多くいます。白川町や東白川村は自町村での就労が多いほか、下呂市や中津川市へ通う人も多くいます。つまり、圏域のなかの地域、町村によって生活圏が異なっていることが特徴です。

昇 教授

定住自立圏構想について3つのことを伝えたいと思います。一つ目はみのかも定住自立圏の大きな特色です。それは、みのかも定住自立圏が名古屋大都市圏の一角を占めているということです。これは大きなメリットです。例えばソニーの撤退は、美濃加茂市にとってだけでなく、みのかも定住自立圏にとっても大問題です。大きな雇用の場の喪失です。しかし、大都市圏にあるため、仮にこの圏域に雇用の場を確保できなかったとしても、名古屋や近隣の都市で働くことを選択することもできます。地方圏にはこの選択肢はありません。

二つ目は、定住自立圏のそもそもの意味です。なぜ、この施策がつくられたかということです。当時の総務大臣はこれからの地方広域行政について、これまでの一部事務組合や広域連合では限界があると考えていました。これらでは、一つの自治体が反対したらなにも施策を進めることができません。機能しないのです。一方で、定住自立圏構想は中心市を中心とした施策です。中心市が個別の町村と協定を締結して進める制度です。中心市はすべての情報を知っているが、他の町村は知らないこともあります。周辺町村が中心市である美濃加茂市と一緒に事業を進めなくてはいけない制度なのです。個別の町村にとっては有効な事業でも、この圏域、美濃加茂市にとって効果のない事業であるなら進めることはできないこともあるのです。こうした基本的な考え方を理解して、この構想を進めなくてはなりません。事業を進めるにあたり、一部事務組合

	<p>や広域連合とは異なり、全自治体の同意を必要としない制度であるのです。</p> <p>三つ目は人口問題です。総人口は減少しますが、65歳以上の高齢者人口は増加します。2025年には、日本は4分の1が高齢者という社会になることが確実視されています。介護の財政負担や老人医療費が急増し、生産人口は急減します。国、地方、市町村がなんらかの方策を取らないといけません。自分の村や町、市はどうなるかということ計算し、住民に対して説明しておく必要があります。</p>
佐合委員	<p>安心・安全分野では、市民の方から定住でこれをやってよかったねと言ってもらえることが望ましいですが、一部ではその成果が見えにくいように感じています。</p>
野村委員	<p>圏域でも救急件数は年々増加しており、これから高齢者が増えるなかで救急車の適正利用が大きな課題になっています。</p>
金武委員	<p>どのように地域で、高齢者を支えあり、見守りしていくかが課題です。圏域で連携していけるといいと思います。</p>
加藤賢委員	<p>川辺町は高齢化率が高い町であります。住民がこれからも安心して暮らせるように美濃加茂市と協力していきたいです。</p>
市原委員	<p>新しい公共には、住民意識の打破、官と民のコラボ、住民一人一人が自立して、お互いが歩み寄って支えあっていく意識が大切です。</p>
塚本委員	<p>七宗町では、平成22年から25年にかけて人口が減少して世帯数が増えています。すなわち、独居老人が増えていることが明らかです。</p>
柘植委員	<p>高齢化により、現在美濃加茂市社会福祉協議会が中心に行っている日常生活自立支援事業などが重要になっていくと思われまます。</p>
長島委員	<p>増加する地域の高齢者を支援するために、成年後見制度のサポートなどを広域で実施できるとよいと思います。移送支援も課題です。</p>
今井委員	<p>インフラ整備はかなり進んできました。これからは村の人口増加をはかるため、少子化対策、男女の出逢いの場の創出などを進めたいです。</p>
田中委員	<p>産業があり収入があることも少子化対策。産業振興の分野では民が中心になって進めることが基本です。いろんな分野で連携を進めたいです。</p>

小西委員	定住自立圏構想は約4年経過し、産業振興は行政の力が及びにくい分野であることがわかりました。町村が増えるにあたり、想いや課題が異なることもわかりました。坂祝町と美濃加茂市という視点なら考えやすいと思います。
加藤孝明委員	少子化対策…子どものいる家庭に住んでもらえる地域にしなくてはなりません。ここに住むのがいい、と思える場所をつくる必要があります。
小島委員	定住自立圏…ほとんどの市民はよくわかりません。合併があればない取組です。美濃加茂市には中心市としてよりよい地域づくりを進めてほしいです。
古田委員	白川町では商工会員も減っています。事業者の黒字運営も厳しい時代。そうしたなかでも、生活機能が成り立つような地域にしていきたいです。
安江委員	定住自立圏構想において、これから都市部と地域とのつながりを考えるなかで、地域の生き残り策としての食糧生産、農業に着目していきたいです。
高井委員	定住自立圏構想のスタートのときに、定住自立圏がこの地域の突破口となると言われてきました。それから4年、小さなことでも少しずつ進んできました。これを伝えていくのが我々の役目だと思います。
太田委員	世界、日本の中で選んでもらえる、外国人にも住んでもらえる地域を目指していくことが大切です。この地域のファンを増やしていきたいです。
佐伯委員	美濃加茂市と川辺町の会をもたなくてはいけない。定住自立圏を通じて、川辺町が美濃加茂市を吸収しようと思えるかのように進めたい。両市町の総合計画をチェックし、何が共通するかを見つめ直す必要があります。
渡辺委員	富加町で国際交流協会を立ち上げました。私たちの団体もワンワールド委員会に参加し、美濃加茂市などの国際交流団体と交流しています。
吉村委員	七宗町も単身世帯が増えてきました。人口減少、高齢化社会問題などへの危機感を強く感じています。
牧尾委員	八百津町も子どもが少なくなってきました。学校を経営していくことも大変です。実際に地域の人口が減ってきたことを伝えることも必要です。

藤井委員	生涯学習情報誌の共同発行事業に白川町も参加するように教育委員会へ伝えた結果、参加する予定。多くの人に白川へ来ていただきたいです。人と人とのふれあいがあって、人口が増加していくと思います。
杉田委員	人口減少・超高齢化・限界集落…元気なお年寄りがたくさんいて、生きがいをもって日々をどう過ごしていくか。子供たちがどんな夢をもって暮らしていけるかを考えたいです。
大矢委員	平成21年から定住自立圏構想はスタートした。平成23年までは各町村との協定を締結し、拡大してきた。あわせてつながる事業も立ち上げて、民間団体への支援も進めてきました。 行政主導から民間就労へ…美濃加茂市の観光協会も圏域の観光協会へ、民間主体の運営に進められるとよいと思います。
市長	市長として今後、どのように定住自立圏に取り組んでいくかについてお話したいと思います。危機感をもってという昇先生の話がありましたが、私も危機感をもってこの職に挑んでいます。以前に東南アジアをめぐるときに、いかに日本は人と人とのつながりが脆弱であるかと痛感しました。この日本を立て直すには、人と人との関係をしっかりしたものとしていくことが必要であると感じ、名古屋や東京ではなくて、人のネットワークがあるこの美濃加茂市で取り組みたいと思いました。 さらに美濃加茂市と加茂郡なら、定住自立圏構想として新しい日本の地域モデルができるのではないかと感じています。この地方でしかできない取組を定住自立圏として、美濃加茂市を中心にして進めていきたいです。 これからは、それぞれの市町村がそれぞれの得意分野をいかし、その市町村が自立して、そこに人が住み続けられるようになる町を目指していくときです。自分たちの町のことは自分たちでやるんだ、という強い気持ちで各町村にももっていただきたいですし、美濃加茂市も中心市として突出して切り開いていきたいと思っています。自分でできることはまず自分で、それからお互いに助けあう、そうした厳しさももって進んでいきたい。各町村も厳しい覚悟をもって、この定住自立圏構想にのぞんでいただきたいです。
永柳氏	定住自立圏構想を進めるにあたり、自分の問題として、当事者意識をもって進めていただきたい。 定住自立圏の主の局面は行政改革にあります。税収が減れば行政サービスが減るのはあたりまえ。人口が減って税収が減れば、地域でやらざる

昇教授	<p>をえないときがきます。行政サービスを享受しようと思うと、新しい行政依存をつくるかもしれなという覚悟をもって進めていただきたい。</p> <p>住まいとしての魅力を高めることによって、定住自立圏に住みたいという人を増やす努力をすることが大切。個々の町村に住んでもらうというメッセージではなくて、みのかも定住自立圏に住んでもらうというイメージを伝えていくことを進めていただきたいです。</p> <p>現在の社会保障制度は、若い人が高齢者を支えることが基本。これは人口が増えていた時代の発想。全世代で高齢者を支えあう仕組みが必要です。</p>
部長	<p>将来が厳しいからこそ、がんばるときにがんばる、これが定住自立圏構想の原点です。大都市圏からの人口流入を目指すときです。単なる広域の行政ではなく、市町村の生き残りをかけて、定住自立圏構想に取り組まなくてはなりません。</p> <p>みのかも定住自立圏では、大都市圏と競合できる圏域をつくることを目指したい。それには情熱と強い意志が必要です。また、新しい公は、行政ではなく、民間、地域、住民が主体となって進めていくことが求められます。行政はその土台をつくらなくてはなりません。</p> <p>今後も、皆様と懇談しながら日本一ホットなエリアをつくっていきましょう。</p> <p>(終了)</p>